

# NPO 法人 ベーシックライフインフォメーション協会 会報 第21号

## 令和3年度の総会 (書面評決)の報告

緊急非常事態宣言のもとコロナ新型感染症蔓延防止を図るため令和3年度の総会は理事会において書面評決で行うことになりました。会員各位には6月27日書面評決に必要な議案一式と回答ハガキを送付しました。7月5日期限の回答を集計した結果、審議をお願いした全議案、第1号議案から第7号議案まで賛成多数で承認され決定しました。

- 第1号議案 令和2年度事業報告
- 第2号議案 令和2年度会計報告
- 第3号議案 令和2年度会計監査報告
- 第4号議案 令和3年度事業計画
- 第5号議案 令和3年度予算
- 第6号議案 役員 理事1名の選任
- 第7号議案 議事録署名人の選出



## 新理事に 松山 達郎

松山 達郎 男性 82歳  
会員歴5年 練馬区在住 参宝院住職  
元会社社長 明治大学卒

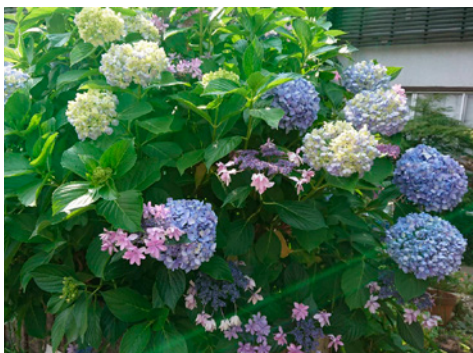
## 令和3年度の事業

内 容	実施時期	会場
(映画事業) 映画上映会 協会製作のドキュメンタリー映画「空を拓く」建築家・郭茂林という男」の日・英・中国語版のDVD等を無料提供し、日本、台湾で自主上映を進める。	年間4回	
(交流事業) 日台交流会 おどりなど検討中	令和4年2月23日	練馬ココネリホール
オール台湾ツアー	令和4年3月21日	練馬ココネリホール

- ①講演会 日台文化紹介
  - ②映画会 日台交流関係 映画2本上映
  - ③バザール 台湾産品、野菜、果物、菓子等
- 臺灣人戦没者慰霊碑で追悼 令和3年11月3日  
奥多摩町 慰霊碑前  
交流の橋渡し 年間随時

### 協会事務所へどうぞ

協会をお訪ねください。歓迎します。ボランティア活動、協会の行事、台湾のことなどお茶を飲みながらお喋りしませんか。日時は電話で相談しましょう。そしていい人間関係を作りましょう。



事務所と庭の花

# 82歳・人間万事塞翁が馬

松山達郎（会員）

## ■台湾との出会い

先般奥多摩湖を眼下に台湾へ出身の戦没者慰霊碑参拝に参加させて頂きました。時に、奥多摩丘陵の山道を老体に鞭打ち、落葉の坂道を踏みつけ、枯れ枝を杖にしながら若い女性たちに背中を押され励まされながらの股上げとなりました。どうやらこの老体にして若い女性たちとの出会いは格別のエネルギーを頂くようで、昔台湾の友人たちとの楽しかった思い出を蘇らせてくれました。

## ■松山空港

まずは玄関口である台北空港が別名松山空港と呼ばれていることが台湾に親しみを覚えたことでした。自分と同じ名前が他人

や地名に出会うと特別な親しみを感じます。まずは空港近くのホテルに入ります。

大きなプールがあり、日本では季節外れの泳ぎを楽しみました。また仕事の都合で韓国に出張することが多かったのですが、寒い韓国でよく風邪を引きました。ところがその後台湾に向かうと松山空港ですっかり治ってしまった！ 緯度の不思議！

## ■MR康彰

私のビジネススマン時代の相棒が台北の康さん・同じ一九三九年三月三〇日生まれの凸凹コンビです。戒厳令下の韓国で彼はソウル市郊外にあったウオーカーヒルのカジノが大好きで、待ち合わせ場所にもなっていました。

彼も八二歳ですから今生きているかな？

台北に帰ると恐妻家で滅多に自宅に友人を呼びません。外国での遊びが奥さんにはばれてしまう恐れがあった！ 私が五四歳で不運の病がなければ今も台北の兄弟分、生きてほしい。

## ■若い事業家、林さんと相棒

日大卒で半導体の仕事をしていた二人が楽しかった。当時の台湾はまだ発展途上でしたが今や半導体の世界で大成功を収めていてほしい。この二人も事業よりも台南で浴衣姿に下駄履き、日本語で麻雀、台北に帰ると基隆港のレストランの床に魚の骨を吐き出す不思議なマナーの食事が思い出深いです。

台北〜台南・高雄、途中の嘉義、車でも

汽車でも何回も往復しましたが、車の中で私が中国語の放送を聞いてみると、慌てて「駄目よー」とスイッチを切る。聞いてはいけない本土の放送だったみたいです。

## ■小城先生

高校二年から国語の担任が「ゴジョウ」と親愛の情を込めて呼び捨てにしていた。先生は明治大学から台湾放送のアナウンサー出身で、先生の授業が有名です。特に漢文の立ち読みで少しでもとちると「立つちよれ！」と叱咤されます。アナウンサー出身の先生は高校生にアナウンサー並の本読みを求めるわけです。この先生はヤンチャの生徒にも正面から向き合ってくれる先生でもあり、後年突然拙宅を訪れて「お前に嫁さんを紹介する」と言うのですが、その時私は既に長男が生まれたばかりで大笑いしながらサントリーの角瓶を何本も空けるという酒友先生です。

## ■台南 湯徳章弁護士のこと

小城先生は私の法学部出身の話に及び私の学生時代の日本は安保・安保（日米安全保障条約改定、反対運動）の大衆運動の時代でしたが、私は兄が京都府警の警部だった事から兄の立場も考え敢えてデモに参加することはしませんでした。その頃のことを酒の話題としながら、日本統治時代台湾の警察官であった湯徳章という人物に話が及びました。彼は日本人を父に、台南生まれの母を持ち日本の中央大学の聴講生となり日本の司法試験と行政官試験に合格し台南で弁護士を開業、台南の学生運動の弁護に尽力した。穏健思想の持ち主であったが時の権力よって公開銃殺に殉じた湯徳章と



湯徳章弁護士の生涯を記す (角川文庫)

という人の生涯を聞かされた。今、記憶が曖昧なことから改めてこの湯徳章弁護士をインターネットにて検索してみました。今は英雄として記念館もあるらしいのでインターネットで「台南湯徳章」と検索をおすすめします。

## ■台湾恋しやの会社専務

上京の汽車賃稼ぎの為に光学器械の店で六ヶ月間住み込みアルバイトで働きました。雇い主は「台湾の銀座」の中心地に大きな店を持ち繁盛していた事が自慢で、まだ未成年の私を夜遅くまで大人の話を聞かせてくれません。政治的に日本との関係が絶たれた時代「俺は必ず台湾に帰る」と息巻いていました。今は昔ですから失礼承知ですが奥様が台湾人で毎朝大声で取っ組み合いの喧嘩・大体奥様の勝ち！ でも子供が五人も続いて生まれるという仲の良さ・私には不思議に思えたことでした。子供好きの私は小さい赤ちゃんを抱いて近所の商店街に散歩に連れ出して他のお店の女性店員さんたちとオモチャにしていたものです。しかし奥様も誰も私を怒ることなく機嫌良く笑って見ていたようです。あの赤ちゃんも今頃立派な母親となり台湾のどこかにいることでしょうか。



開聞岳（鹿兒島県）海の向こうに台湾がある

# 最後の湾生世代

石井禎郎

田代美範元理事長さんから、あなたは私と同じ最後の湾生世代だから、湾生の思い出を書いて欲しいとお話がありました。

実は湾生と言ふ言葉はなんとなく記憶していましたが、自分が湾生であるとの自覚はあまりありませんでした。私の第二の故郷は台湾だ程度の認識でした。

改めて自分が湾生であると自覚したのは何時だったか思い出してみます。

それは、二〇一六年に岩波ホールで見たドキュメンタリー映画「湾生回家」でした。改めてパンフレットを見ると「湾生」とはとして次のように書かれています。

湾生とは、戦前の台湾で生れ育った約二十万人の日本人を指す言葉です。下関条約の締結された一八九五年から一九四五年までの五十年間、台湾は日本に統治されていました。

当時、日本から公務員や企業の駐在員が台湾へと海を渡り農業従事者も移民としてその地を踏みました。そして、彼等のほとんどが敗戦後、中華民国政府の方針によって日本本土に強制送還されました。

引揚者が持ち出しを許されたのは、一人当たり現金一千元(当時)とわずかな食糧、リュックサック二つ分の必需品だけでした。

これを見るとたしかに私は湾生です。昭和十二年(一九三七年)から帰国までの約八、九年間の湾生生活でした。

正直申して、映画「湾生回家」を見て、このような世界もあったのかの思いです。

私にとつての湾生生活は、一人当たり千円、リュック二つから始まった母国の厳しい生活の中で記憶の底に封じ込められたのかもしれない。亡き父母も湾生生活を語るのをあまり好みませんでした。

今私の身近な肉親の湾生は、祖父母、父母、叔母が鬼籍に入り、残るは姉私弟妹の四人になり、湾生生活を語り合う機会も無くなつてしまい、今では私にとつての湾生生活は、断片的な台中市の思い出の中にあるだけになってしまいました。

戸籍謄本によると、私の出生地は「臺灣臺中州臺中市」となっています。当時の台中は農村都市であったと記憶しています。

戦争中は、爆撃の目標となる大きな建物はなく、爆撃のあったのは近くににあった師範学校が軍事施設と間違われ爆撃された一回だけだと聞かされていました。

私の父は、当時台湾電力に勤務していて、住居は日本人だけが住んでいる小さなベツトタウンでした。ベツトタウンの周辺は、田畑の広がる農村地帯で、近くの小川で仲間と小さな魚や手長エビを採ったり、ミミズを餌に蛙を釣ったりした記憶があります。

小学校生活は二年間の短期間であり、その間も連日の空襲警報で登校したとたんの帰宅で、どんな学校生活を送ったのかまったく覚えていません。

日常生活もベツトタウン内に限られていたため台湾人の人々との交流もなく、日本

の何処にでもある平凡な日常生活でした。

最近の台湾のガイドブックによると台中は台北、高雄に次ぐ第三の商業都市とあります。私の記憶する台中とはあまりにも懸け離れていて、若しかすると私の住んでいた所は、台中市の郊外で、幼い湾生はそこが台中市そのものと思ひ込んでいたのかもしれない。

台湾高速鉄道が開通した二〇〇七年に、ある観光会社の台湾旅行団体ツアーに、台湾旅行初体験のわが連れ合いと参加しました。

た。

私の故郷、風光明媚で水牛が川に遊ぶ豊かな自然の台中を車窓から見せてやると言っていました。

当日、車窓から見た台中は、住宅の連なる市街地で、あつと言ふ間に後方へ去つてしまいました。それからと言ふもの私の語る湾生時代の話はすっかり信用されなくなりました。私には湾生物語を語る資格は無さそうです。田代元理事長さんにはお断りすべきでした。

## 臺灣関係図書コーナーのご案内

協会事務所に台湾関係図書コーナーがあります。覗いてみませんか。ご利用希望の方は電話予約の上お出下さい。貸出しもできます。蔵書数 約300冊

### 所蔵本の一例

蔡英文 新時代の台湾へ

蔡英文

海を越えたなでしこ

本田美穂

語られなかった日本人画家

森 美根子

台湾論

小林よしのり

非情山地

林 彦卿

私の箱子

一青 妙

臺灣俳句歳時記

黄 靈芝

臺灣少年物語

東 俊賢

愛と信仰

李 登輝

蔣 経国傳

小谷豪治郎

アジアの知略

李登輝・中嶋嶺雄

乃木神社・東郷神社

神社シリーズ

臺灣

載 国輝

臺灣

伊藤 潔

友愛

友愛

友愛

友愛

## 私と台、日、英との絆 —バルトン先生の銅像復元除幕式から思ふ—

鄧淑瑩(台湾經濟省輸出加工區管理処 秘書)



台湾有名な彫刻家蒲浩明氏に作られたバルトン先生の銅像は2021年3月30日に台北水道博物館園区で復元された。

昨年(2020年)コロナウィルス感染症の爆発と蔓延で、私が30年間ぐらいに渡り行ってきた台日交流が中止になりました。私自身日本へ渡航できなくなり、また日本の友人や日本にいる家族も台湾へ来られなくなりました。これはとても残念なことだと思つと同時に、皆さんの安否も大変気掛かりになっています。

私の日本との縁と云えば、1985年の大学一年生の夏休みを利用し、日本へ遊びに行ったときからです。その時、私は日本語の発音あいうえお、でさえ

も分からなかったのに、一人で行ってきました。当時1980年代の日本はすでに経済の急成長で近代化が進んでおり、先進国の仲間入りをしていました。世界の人々から注目を浴びており、台湾に戻ってから日本語の勉強を始め、そして、大卒後、日本留学をすることにしました。まず日本語学校で日本語を学び、その後上智大学大学院に通いました。台湾に戻ってからも日本語を使う機会のある職場に就いて、また様々な台日交流のボランティア活動をしてきたおかげで、日本との交流ができた

した。

コロナ禍のせいで昨年一年間面対面の台日交流活動ができなくなりましたので、この期間を利用して「バルトン先生—明治の日本を駆ける!—」と言う本の翻訳に専念することが出来ました。この本を翻訳することによって台湾公共衛生の先駆者であり台湾水道の父と呼ばれているバルトン先生のことを知ることが出来、バルトン先生の敬天愛人と悠久生命の精神に感動しました。

百年余り前の19世紀、飛行機や豪華なクルーズ船もなく、諸外国渡航が非常に不便な時代にイギリスのスコットランド人でおられるバルトン先生はいろんな苦難を経て遠路はるばる日本と台湾へ渡航してきました。そして当時の人々の悪い生活環境を改善するため、バルトン先生は日本と台湾両地で一所懸命に自らの技術、経験や知恵を尽くしました。しかも、台湾水道水の源地を探求するため、険しい山の奥へ入り込みました。この間に親愛なる弟が亡くなり見送れることができなかつたり、急逝した敬愛する母親の葬式へも参加できませんでしたので、自らを責めて悲しむしかできませんでした。このような不幸に遭遇しても台湾と日本との人民の福祉に努めてきました。最後は、台湾北部の烏來の山で風土病を

罹られて日本で休養してからスコットランドへ帰ろうと考えましたが、日本で病気が悪化し、海外の他郷で亡くなりました。バルトン先生は結局一生故郷へ帰ることはできませんでした。親友たちとの再会もできませんでした。バルトン先生のような自分の身を捨て他人に尽くす精神に尊敬の念が絶えません。

日本が台湾を占領した初期、抗日ゲリラの行動は日本総督府を非常に困惑させました。バルトン先生はこの問題を解決するにはまず台湾人民の心を捉えなければならぬと主張しました。たとえば良好な衛生環境を提供して人民が安全に暮らせたり楽しく仕事ができる環境を作ることが大切です。言い換えれば、台湾を統治するというより、台湾を管理することだと述べました。

バルトン先生は風土病に襲われ、台湾には3年間しか滞在しませんでした。彼が十分に考察してから提案した計画はその後彼の弟子浜野弥四郎の手によって23年間持続後完成に至りました。これらの計画は台湾公共衛生建設に大いなる貢献をしました。

### 一、**上水と下水工設計及び衛生改善**

現代の生活では水道の蛇口を開けたら、簡単に水道水を使えます。皆さんもこれはすぐ当たり前のことだと思



著者鄧淑瑩ご夫婦は2021年3月30日バルトン先生の銅像復元除幕式に参加した。

われます。しかし、バルトン先生と弟子たちが初めて台湾に到着した時、台湾住民の生活環境は劣悪で、飲用水は井戸の水しかなく、水道水や汚下水水道施設は全くありませんでした。当時汚水は民家の外の地面に溜まり、蚊や蠅が発生し、伝染病が流行り、その上医療施設も乏しかったのです。これらの問題を解決するために、バルトン先生は積極的に新しい水源地を探し、上下水道の分流観念を導入し、建設のプランを立てました。それで、今は台北の

公館に残っている台北浄水場と台湾公衛生研究機構が誕生しました。

**二、水流式の浄水槽の導入**  
当時、便所がある家は少ないので、大小便があつちこちにする人が多かったです。人々の暮らしの生活環境は下水が臭くてすごく悪かったです。バルトン先生は水流式の浄水槽を導入し、汚染を解決しました。

**三、都市改善の計画**  
現地調査を行い、台湾本島及び澎湖島の離島まで足を運び、道路建設、建

築物の構造及び上下水道の整備などを行いました。

**四、データの収集と統計**

上述の各項目の仕事を進めるため、バルトン先生は台北市街をすみずみまで歩き回り、人口統計資料、地形図、降雨記録、河川流量記録、洪水記録、一人一日の平均用水量などの基礎データを収集して分析しました。

**五、衛生の観点に立つ**

**家屋構造**  
台湾は高温多湿で、

土地は蚊の培養地になりやすい上、マラリアが絶えない原因の一つが家屋の構造にもありました。寝る場所が二階と一階とではマラリアに罹る割合が違って、二階だと罹患率が低かったです。そこでバルトン先生は軒が張り出しその下を側道にした「軒下側道」付き住宅、そして、このタイプの住宅に二階を設けて居住スペースとする和洋折衷方式を台湾の模範的家屋として推奨しました。これで、室内の多湿を解決し、また歩行者の雨よけにもなりました。

現在、コロナウイルス感染症は厳しい状況にありますが、正にバルトン先生の台湾への公共衛生建設の貢献を思い出しました。彼はきれいな給水を着手し、水道のシステムの構築を通して水資源の衛生と供給を確保し、全民に水を共有させました。このような精神は我々の模範になります。

このようなバルトン先生の台湾への貢献をもっと多くの台湾人に知ってもらうため、台北市政府、日本下水文化研究会、一般社団法人台湾友の会、台湾駐日代表処の方々のご尽力により今年(2021年)3月30日に台北の水

道博物館区でバルトン先生の銅像復元除幕式を行うこととなりました。台北柯文哲市長、日本台湾交流協会泉裕泰代表、イギリス駐台辦事処ジョン・デ

ニス代表、そして、台湾駐日代表処の謝長廷代表、バルトン先生の玄孫ケヴィン・マサヤ・メッツ様も東京からオンライン式で一緒に参加されました。その日、個人的な話になりますが私と夫も参加させていただき、とても光栄に思いました。コロナウイルス感染症への防止について、台湾は去年(2020年)成功に感染を押しやりましたが、残念ながら今年5月からコロナが一変蔓延してきました。これから台湾官民一体になってコロナの感染拡大が防止でき、また世界の模範になってほしいです。

この記念活動を通して、バルトン先生を祈念し、彼の台湾への献身に感謝することでき、日本、台湾そしてイギリスとの国際交流まで更に促進でき、非常に有意義な活動だと感じました。

最後になりますが、コロナウイルスが一日も早く終息して、健康で安全な生活環境、自由渡航往来が回復することを祈念致します。そして、日本、台湾、イギリスとの絆が更に強固なものとなることを心より期待しています。



# 李鎮源先生の思い出と台湾の医学

大山公明



李鎮源 (1915—2001)



学生時代と医学部長時代

私は、昭和一四年一〇月台湾台北市福住町の総督府の官舎で生まれた。東門市場と刑務所の間の所だ。故郷台湾には、七〇才を過ぎて過去三回旅した。その内二回、幼時にお世話になった、旧台北帝大医学部付属病院を訪れている。私は、一才の誕生日の時、中華料理を食べて疫痢から腸出血を患っている。両親の話では、重病で死線をさまつたらしい。また、四才の時、百日咳から肺を痛め助膜炎を患っている。二回とも附属病院に入院し、幸いにも死を免れた。そんな記憶があるので、同病院を是非訪ねたい思いがあった。

建物を訪れると、今でも病院として運営されていて、病に苦しむ患者で溢れていた。そんな病院の二階の廊下に座り、病室を眺めながら、昔の記憶に浸った。一才の入院の時は、腸出血が止まらず、多くの病院のスタッフ、看護婦、用務員、清掃員、門番など台湾人からも輸血を頂いたそう。私の体には、台湾の血が半分流れていると言える。担当の医師は、母親の記憶では、李先生という方だとよく聞かされた。私は、幼時ながらタフで、執拗な病魔と闘った。李先生が、一月ほど東京に出張し、帰ってきて、私がまだ生きているのに、驚いたとか。その後、先生の熱心な治療と、父親の最後の輸血で、私は死線乗り越えることが出来た

病室は窓が締め切られ、茹だる様な暑さだ。私はヒステリーを起こし、泣き叫んでいたそう。その声が、一階のロビーまで聞こえた。と母はよく話してくれた。隣のベッドの台湾人の男の子が、猿病という奇病で無くなったのもショックだった。恨めしいのは、毎朝、白衣の先生と看護婦に囲まれ、大きな注射を背中刺され、助膜に溜まった水を抜かれる時だ。この時の恐怖は、トラウマとなって、かなり長い間尾を引いた。幸い助膜炎は収まり、人力車で帰宅したが、家の付近は防空壕掘りが進行中で、深刻な事態を子供心に悟った。

さて、恩人の李先生のことだが、昭和一五年の台湾総督府職員録を調べると、台北帝国大学医学部の助手・李鎮源という名前であることが分かった。さらに、台湾のネット情報を検索して、先生の経歴に驚いた。先生は台南の出身で、幼い頃に父親をマ

ラリヤで失い、医師を志す。難関の台北帝大医学部に入学、昭和一五年に卒業、助手として採用され、付属病院の内科の臨床医師となった。しかし、彼は基礎研究を希望し、台湾人の先輩で熱帯医学の杜聰明教授(京都帝大卒、台湾人初の医学博士)に



旧台北帝大医学部付属病院



杜聰明 (1893—1986)

の毒蛇の研究を委託される。一九七二年先生は医学部長に就任、一九八五年には、長年の蛇の毒素の研究での一〇〇以上の論文が評価され、国際毒素学会の会長に選出される。

イキを実践、一九九六年建國党の創設に参加、初代党首に就任する。国民党政府と戦い、ストライキを弾圧する内乱罪を規定した刑法一〇〇条の修正に貢献した。以上、台湾を愛し政界に進出した李先生だが、晩年脊椎を痛め、二〇〇一年八才で生涯を終える。

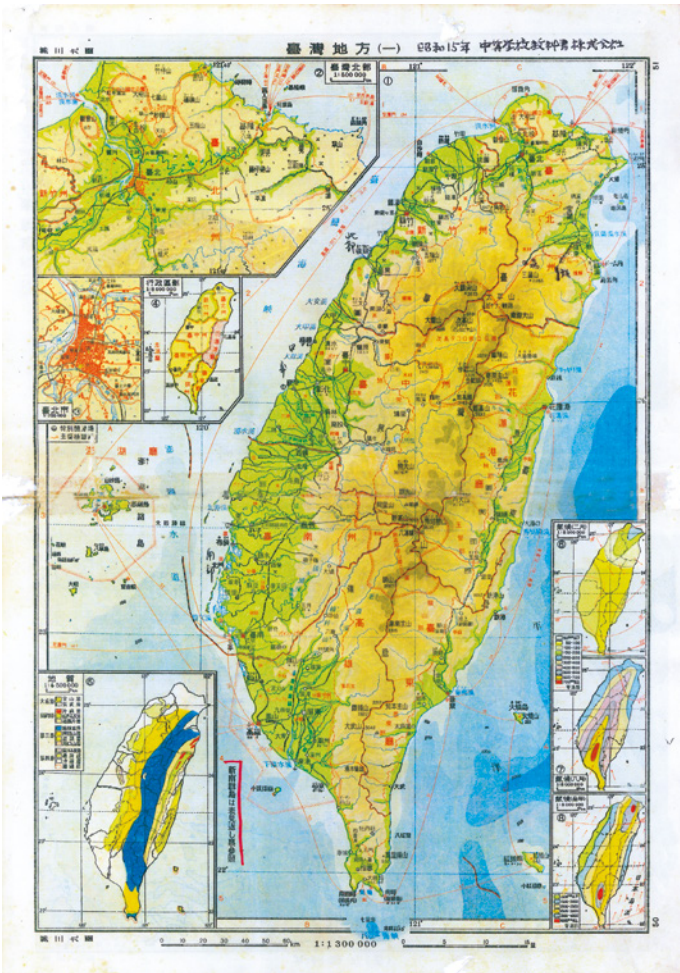
日本本土から誘致した優秀な教授陣の働きは、熱帯に特有な風土病や伝染病を克服して行く。さらに、戦後、日本医学を引き継いだ杜先生や李先生のような本省人の医師が、後継者を生みながら、台湾の医学を発展させたのだ。この歴史の結果、蔡英文総統下のコロナ・ウィルス対策で任命された、陳時中医師のチームが台湾国内の蔓延を防ぎ、世界を驚嘆させる成果を上げている。

ついて、蛇の毒素の研究に従事することを決める。従って、私が附属医院で先生の治療を受けられたのは、幸運な出会いだった。先生の研究成果は、昭和二〇年に論文「鎖蛇へび毒の薬物学的研究」を発表、医学博士となって終戦を迎える。昭和二二年、蒋介石政府と引継ぎを終えた森於菟、金関丈夫など日本人の教授陣は日本に引き揚げて行く。台北帝大は、台湾大学と名を変え、医学部は中国本土からの医師に支配される。不運だったのは、二二八事件である。本省人の医師たちは蒋介石の弾圧に怯える。杜聰明教授は、高雄に移り、私立の高雄医科大学を創立する。李鎮源先生は台湾大学に残り、毒蛇と漢方薬の研究に専念、また、ペンシルベニア大学に留学する、ベトナム戦争当時、米軍よりベトナム

一九八六年、七〇歳を迎えた先生は潔く退職する。実は、この年の二月、李鎮源の恩師、杜聰明先生が亡くなっていくのだ。彼は、台湾帝大時代や高雄医科大学で、多くの台湾人の医師を生み育てた。本省人ばかりでなく、原住民の医師も生み出し、彼らの医療にも貢献した。従って、杜先生は台湾医学の父と呼ばれる所だ。李鎮源先生は、退職後、台湾の独立を求める学生等と断食ストラ



森於菟・医学部長像  
森於菟教授は、小説家で医師の森鷗外の長男。専門は解剖学。



1940年中学校教科書株式会社の地図帳から転載

協会短信

訃報

岡村 悦子  
92歳 協会監事 5月9日逝去 長年に亘り協会役員を勤め、事業運営、資金援助など会の発展に尽くされた

「空を拓く」の映画をあなたに提供します

ドキュメンタリー映画「空を拓く」建築家・郭茂林という男」をあなたのご都合がいい日に上映します。お申込み下さい。

**上映対象** グループ、家族で参加人数2人以上5人以内、協会会員の紹介のある方。  
**上映日時** ご希望を伺い調整して決めます。  
**上映時間** 85分 映写機により上映  
**上映場所** 協会事務所  
**上映費用** 無料 会場までの交通費は参加者負担です。

◆会員募集◆

本会では会員を募集しています。日本と台湾の友好親善活動をします。無償のボランティアです。意欲と行動力があれば年齢、経歴など問いません。お問い合わせは事務局まで。

●編集後記●

○コロナ新型感染症蔓延のため対面による総会は中止し、書面評決により行ったが、会員各位の協力で令和3年度の活動が開始できた。ご協力に感謝します。  
 ○今号も寄稿が4編寄せられた。たいへん嬉しく思いながら掲載した。御礼申し上げます。  
 ○22号の原稿を募集しています。ご投稿をお待ちしています。

○Taiwan Pine Applesのこと

希望の明日。心と心のふれあいセールスが出来ました。突然のニュースで(中国の輸入停止)に立ち上がった日本人有志の共鳴に協力の輪が出来ました。さすが芳香よし味覚よし甘味の濃さは大好評です。後味としてもっと食べたい。という事でした。

○フレンドリーワークチン輸送のこと

世界中が大騒ぎ新型コロナウィルス 大切な命のリーが東北3・11の感謝のお返しをすばやく「加油・台湾」応援団が成果をつなげた。日本人の心の真実(誠実)を伝えられた。古き日本時代の精神教育ですね。台湾の各地からは日本に対する感謝の気持ちを表した沢山の動画が送られてきております。人として胸キュンとなり、日本人の常日頃の表れ、心と心のメッセージです。

○この会報の4ページのバルトン先生の銅像を製作した「浦浩明」氏は台湾で有名な方です。先年台湾文化センター



彫刻家 浦浩明氏

ターに来られた折、お会いしました。浦先生は「郭茂林」氏を知っておられて、「彼は日本で活躍された台湾人です。ぜひ銅像を作りましょう」と。いつの日か実現にむけてともに気運が醸成されることを期待しています。

協会ホームページの案内

■ホームページ <http://blia.jp>  
 ■Facebook <https://www.facebook.com/bliaassoc>

○ベシックライフインフォメーション協会は、日本と台湾の親善友好交流を目的とした活動を行っているNPO法人です。会員の会費と拠出、有志の寄付によって運営する自立したボランティア団体です。  
 ○「基礎生活資訊協會」係本善以日本及台湾親善友好交流為目的、(不定期)舉辦活動之NPO法人協會。同時是一個各項經費支出來自於會員會費及各方捐款的獨立自主營運的志工團體。

構成員名簿

令和3年7月10日現在

理事長 加藤美智子※	児玉 治	林 銀
理事 尹 世玲	須貝 克俊	一青 妙
理事 中村 和利	錢 妙玲	村尾 則広
理事 林 政明	田代 守	楊 麗焰
理事 松山 達郎	田代 實範※	匿名
監事 郭 純※	鳥羽 展維※	※は映画製作実行 へ委員会委員
上里 佑子	豊川 玉蘭	
江波戸つぎ	仲里 建良	
小出 正之	中村 佳代	
小出 智子	畠中 治憲	

特定非営利活動法人

ベシックライフインフォメーション協会

会報第21号

発行日 令和三年七月十日

発行所 東京都練馬区石神井町六一二二三

電話 〇三―三九九六―〇一七七

発行人 加藤 美智子